2021/06/28（月）

朝の礼拝

聖書　マタイによる福音書25章14-28節（新約聖書49頁）

「天の国はまた次のようにたとえられる。ある人が旅行に出かけるとき、僕たちを呼んで、自分の財産を預けた。それぞれの力に応じて、一人には五タラントン、一人には二タラントン、もう一人には一タラントンを預けて旅に出かけた。早速、五タラントン預かった者は出て行き、それで商売をして、ほかに五タラントンをもうけた。同じように、二タラントン預かった者も、ほかに二タラントンをもうけた。しかし、一タラントン預かった者は、出て行って穴を掘り、主人の金を隠しておいた。さて、かなり日がたってから、僕たちの主人が帰って来て、彼らと清算を始めた。まず、五タラントン預かった者が進み出て、ほかの五タラントンを差し出して言った。『御主人様、五タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに五タラントンもうけました。』主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』次に、二タラントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、二タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに二タラントンもうけました。』主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』ところで、一タラントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、あなたは蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集められる厳しい方だと知っていましたので、恐ろしくなり、出かけて行って、あなたのタラントンを地の中に隠しておきました。御覧ください。これがあなたのお金です。』主人は答えた。『怠け者の悪い僕だ。わたしが蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集めることを知っていたのか。それなら、わたしの金を銀行に入れておくべきであった。そうしておけば、帰って来たとき、利息付きで返してもらえたのに。さあ、そのタラントンをこの男から取り上げて、十タラントン持っている者に与えよ。

# タラントンの重さ

　タラントンとは古代ギリシアの金や銀の重さの単位です。それが通貨の単位となりました。1タラントンは当時の約6,000日分の賃金で、約16年分の所得になります。当時の寿命が約35年とも言われていますから、ほぼ生涯の所得となります。決して少ない額ではありません。

　ある主人が旅にでかけるので、僕たちを呼び、それぞれの力に応じて、財産を5タラントン、2タラントン、1タラントンと預けました。「主人」とは神様で、「僕たち」とはわたしたちをたとえています。よく「いのち」は授かりものだと言います。人生そのものが自分のものではなく、神様から賜り、預かっているものということです。

　私が高校2年生の頃だったと思います。友だちとギターを奏でながら、あれこれ話すことが楽しかった反面、受験が近づき自分のことで頭がいっぱいでした。将来の夢を描く本ばかり読んで、いつか家を飛び出し冒険したい気持ちで一杯でした。自分自身に自信がなく、将来が不安な反面、なんとか飛び出したい、飛躍したいというアンビバランスな気持ちでした。

　でも、その時の私はまだ自分に預けられたタラントンの重さがわかっていませんでした。進学して、自分がどれだけ無知で、何も知らなかったのか、失敗して恥をかきながら、慰め励ましあい、喜びをわかちあい、そして少しは他人（ひと）の成長、巣立ちを喜び、感謝できて、少しずつ自分に与えられたタラントンの重さを感じるようになりました。

（しばらく黙祷しましょう）

英和女学院、英和生を愛し、励まされる主よ。
あなたはタラントンのたとえを通して、わたしたちに尊いいのちと生涯にわたる道を示して下さいました。どうか与えられたタラントンをわかちあう喜びと感謝する道へと導いて下さい。また明日より期末テストが始まります。どうか英和生が体調を整え、良き準備をもって臨むことができます

ようにお導き下さい。今日一日もすべてをあなたに委ね、安全で健康な学校生活を守り、よき学びの時をお与えください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン